

R-18  
AdultsOnly

勇者が僕の  
村に来た。

◆登場人物

勇者  
すごく強い。

アーニヤ  
ミアの母。未亡人。

ユテ  
勇者の従者。

ミア  
テルの幼なじみ。

テル  
勇者に憧れる村の少年。  
ミアに気がある。



勇者

教会から超越者として  
認定された者達は  
人々から敬意をこめて  
そう呼ばれている

多くの人が  
そうであるように  
僕も勇者に憧れていた

彼らは人とは  
かけ離れた力を持ち  
世のため人の為に  
その力を使う

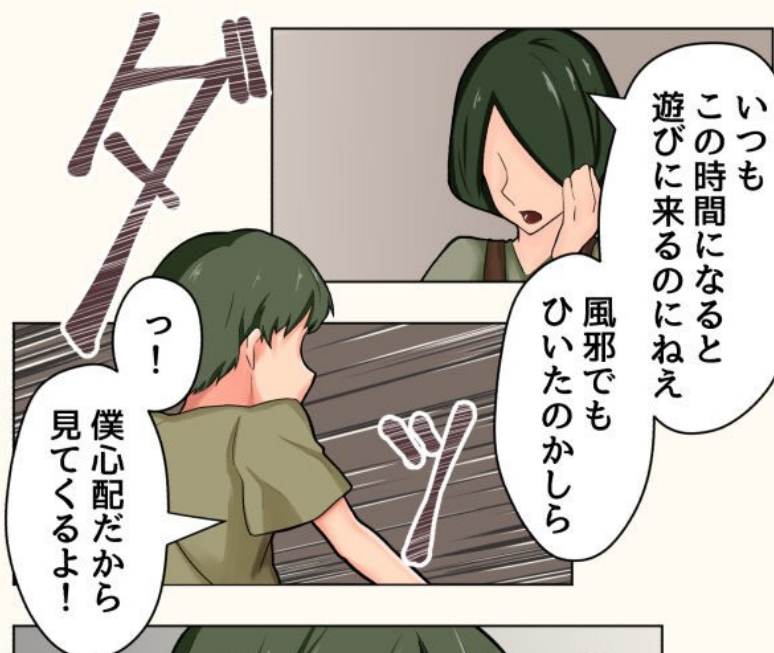
あの日が  
来るまでは――

どう？  
見える？

うん  
見えるよ！

すごいなあ  
本当に勇者様が  
この村に  
来てるんだね！









そんな  
ある日――

これほど  
恐ろしい魔獣が  
村の近くに  
いたなんてのお

勇者様が  
来てくれて本当に  
良かったわい

そうですねえ



あれ？

でも魔獣を倒したなら  
勇者様はもう王都に  
帰っちゃうんじゃない？



こんなに  
大きな魔獣に  
勝っちゃうんだから

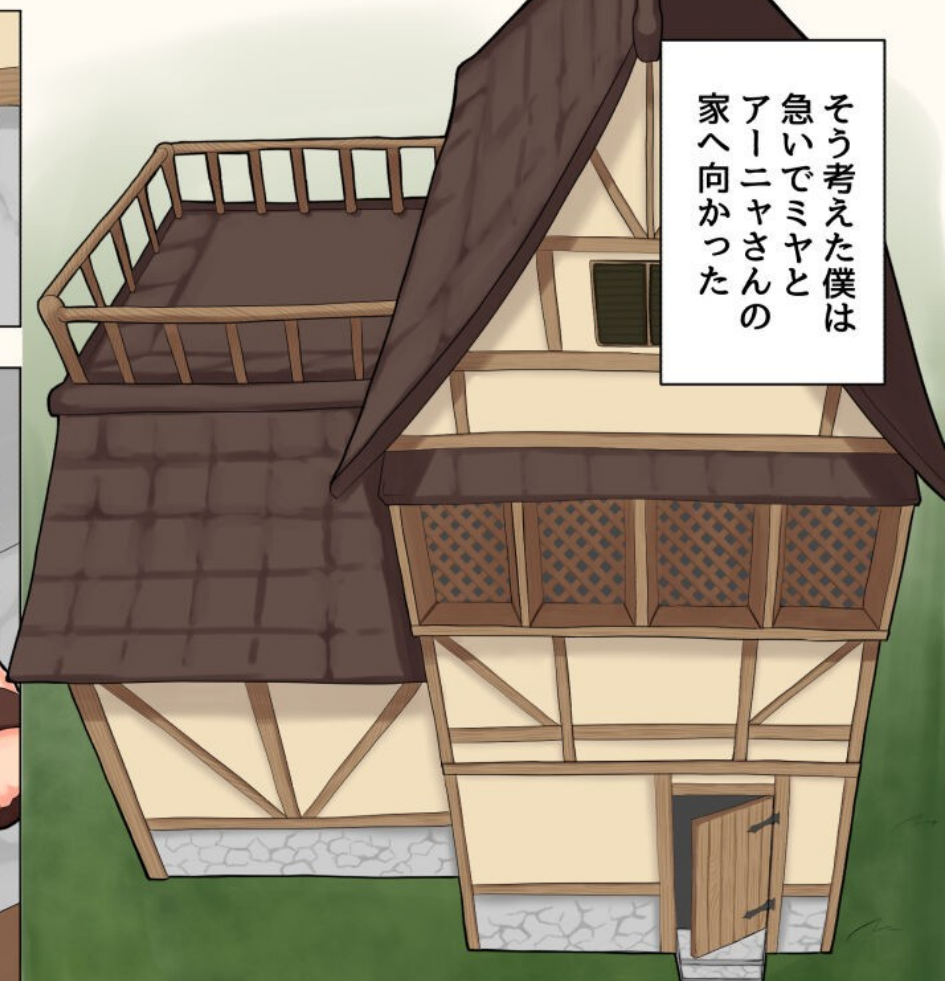
やっぱり勇者様は  
すごいや……！



開いてる……

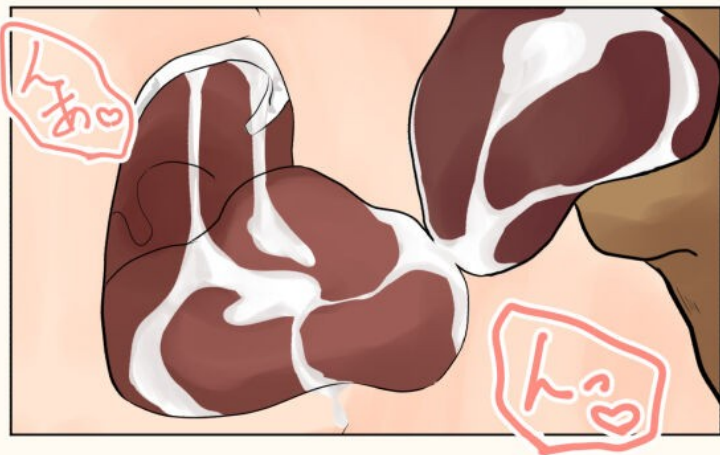


アーニヤさん？



そう考えた僕は  
急いでミヤと  
アーニヤさんの  
家へ向かった







ほら  
アレやってやるから  
ねだってみろ

はいっ♡

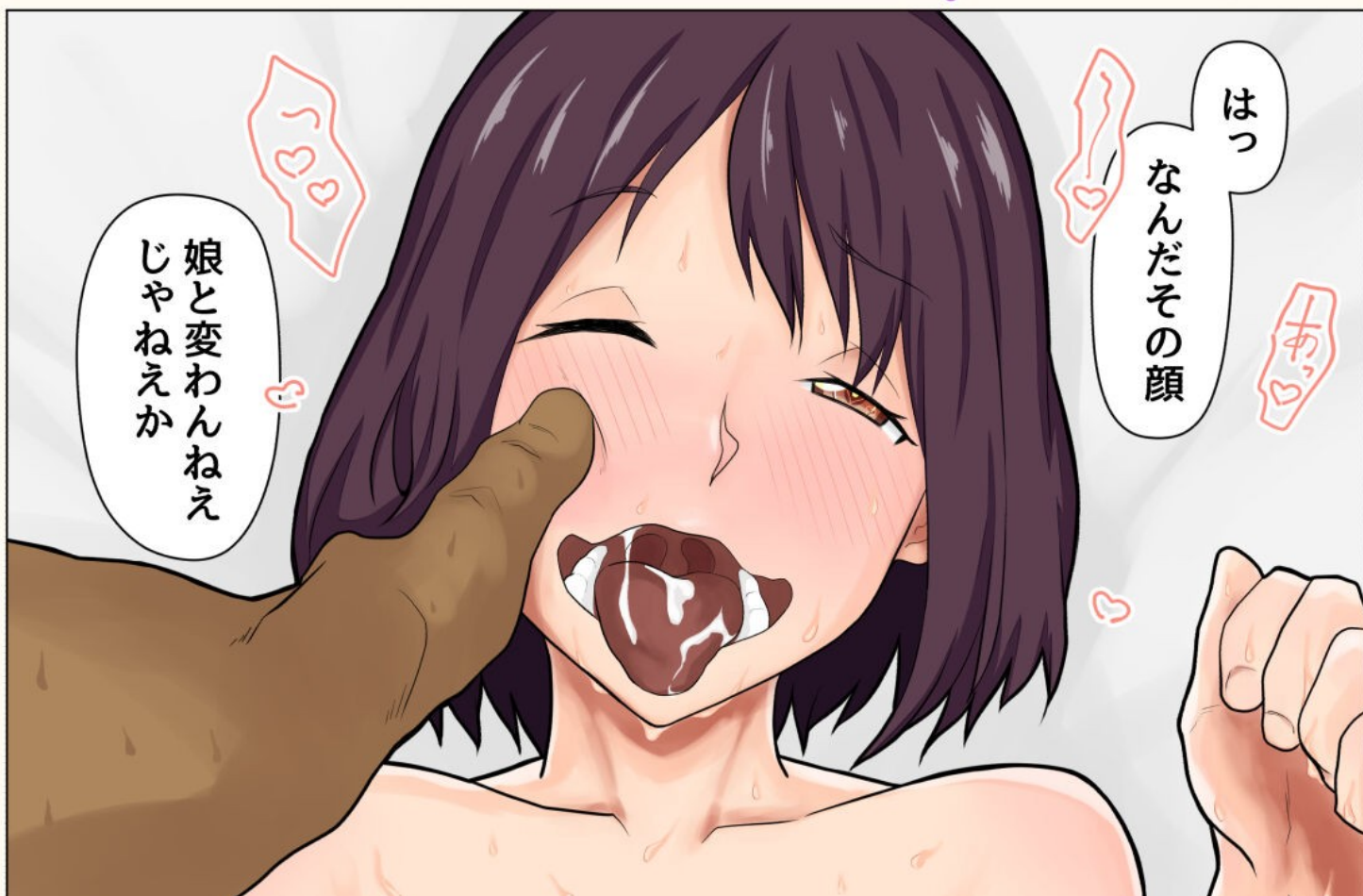
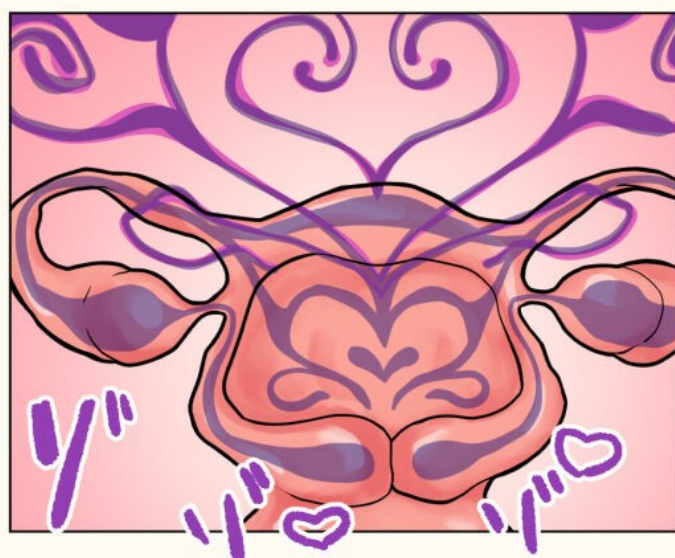
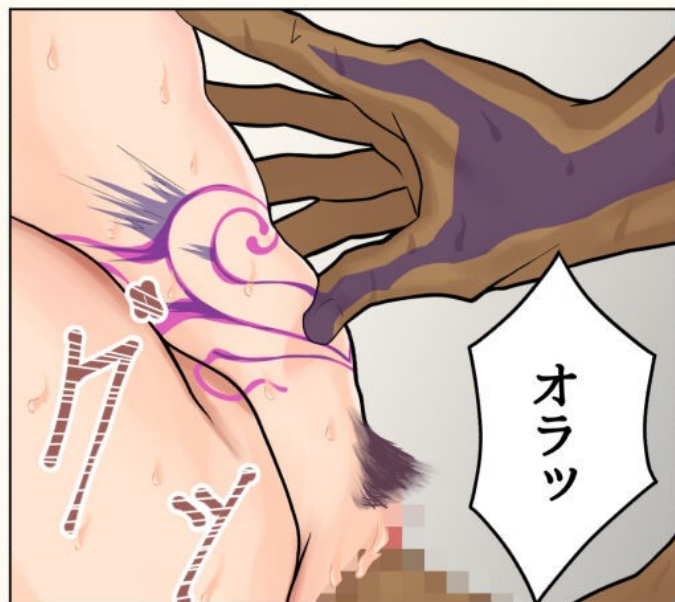
ゆ、勇者さまの魔力で  
私のだめまんこっ♡

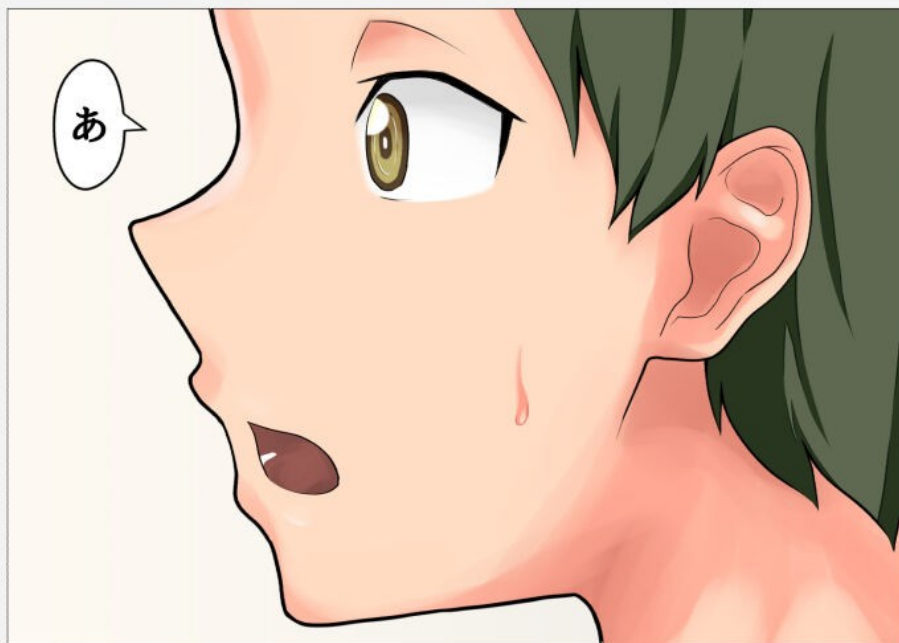
舐めて  
くださいっ♡

娘がいるのに  
せーしおねだり  
しちゃう  
ばかまんこっ♡

いっぱいお仕置き  
してくださいっ♡

ハッ  
みつともねえ  
母親だな







家に帰ってから  
僕はすぐにベッドへ  
潜り込んだ

眠ろうとしても  
あのとき見た光景が  
目に焼き付いて離れない

あれはミア  
だったのだろうか

そうだとしたら  
どうして…



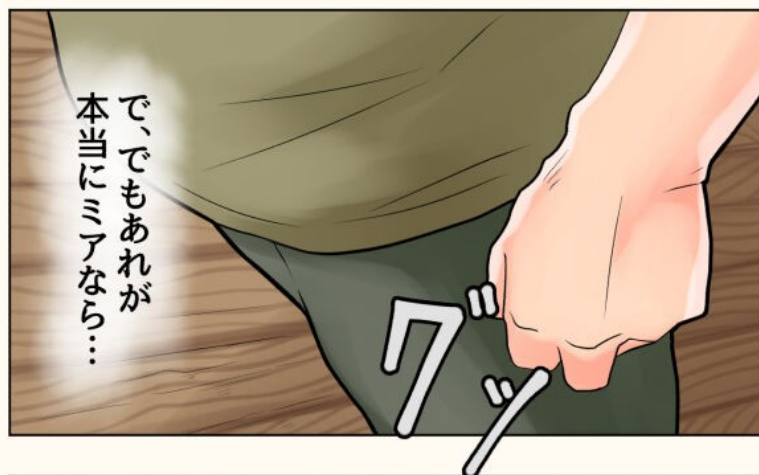
テル!

いつまで  
寝てるの!

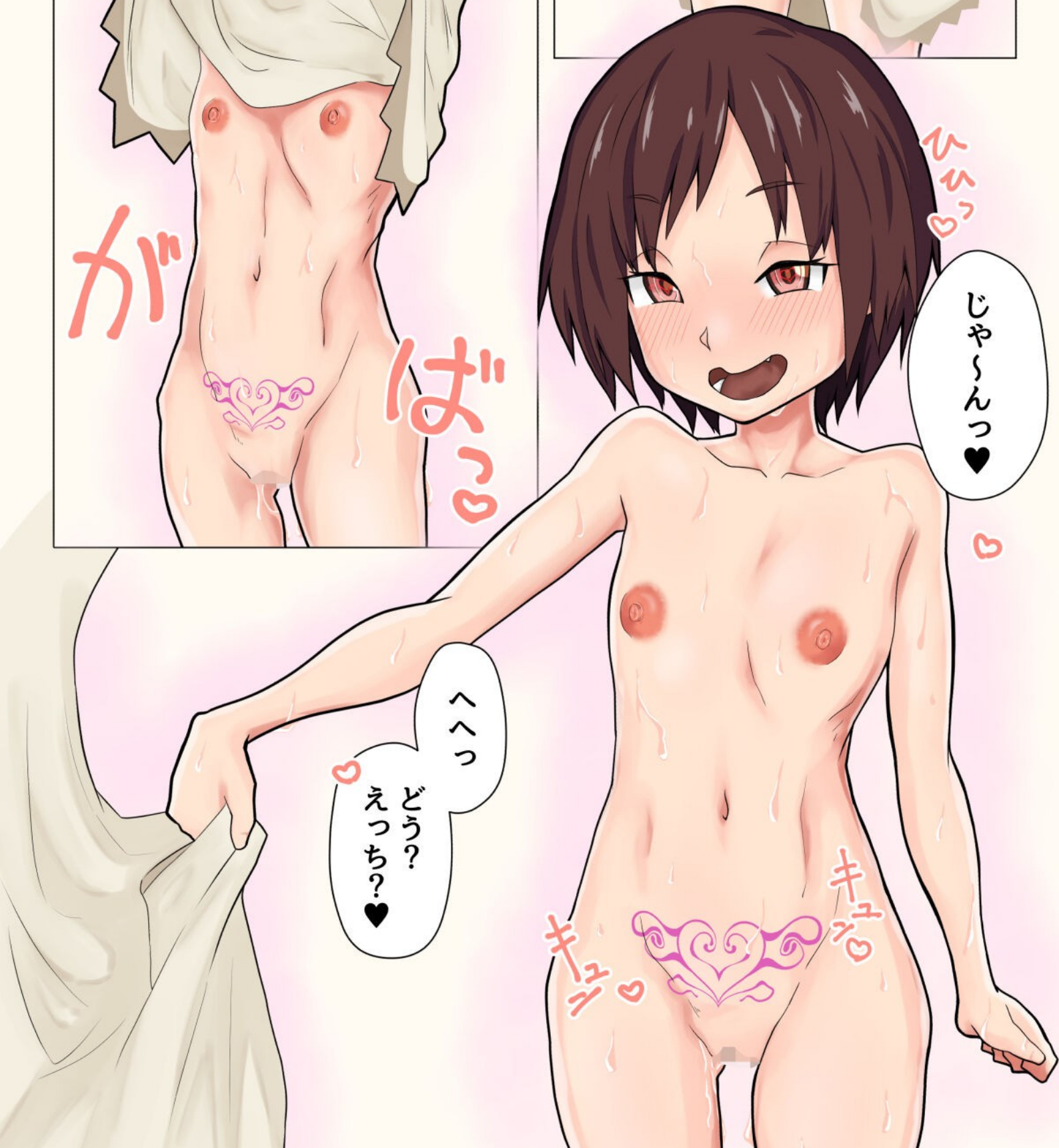
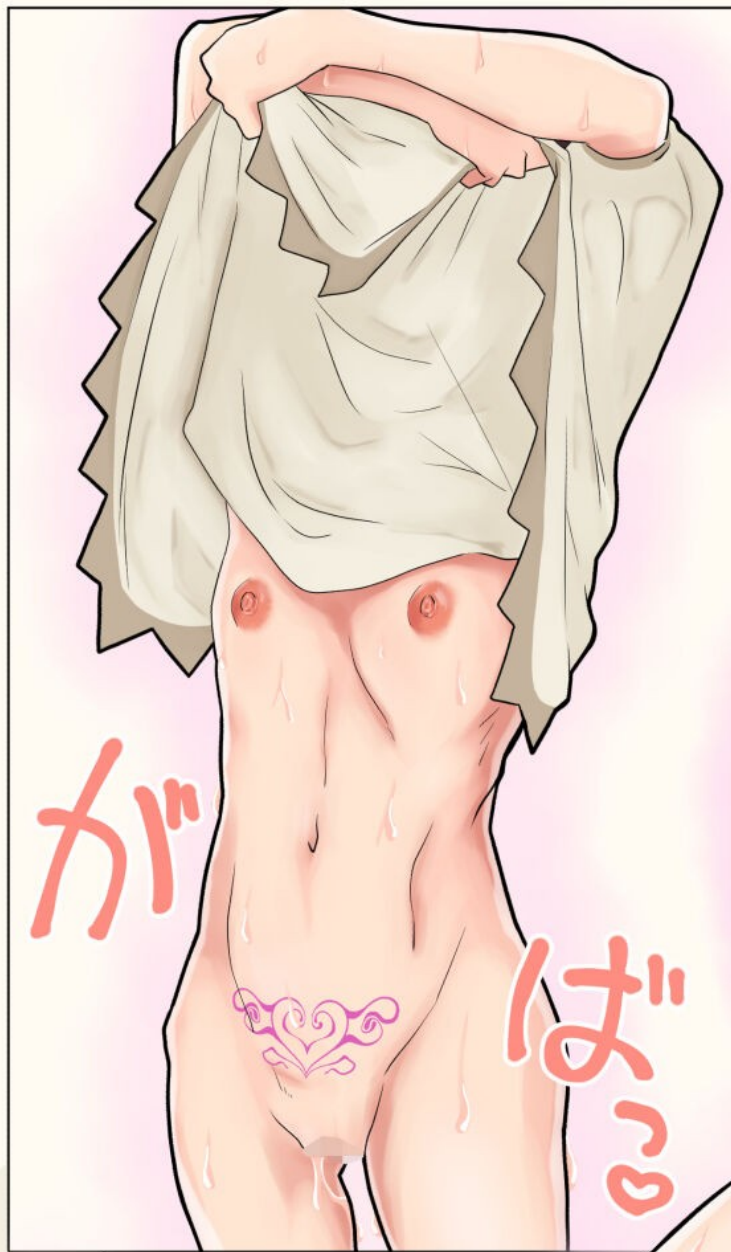
勇者様の  
従者の方が  
来られてるわよ!

えっ!?









ひゅっ♡

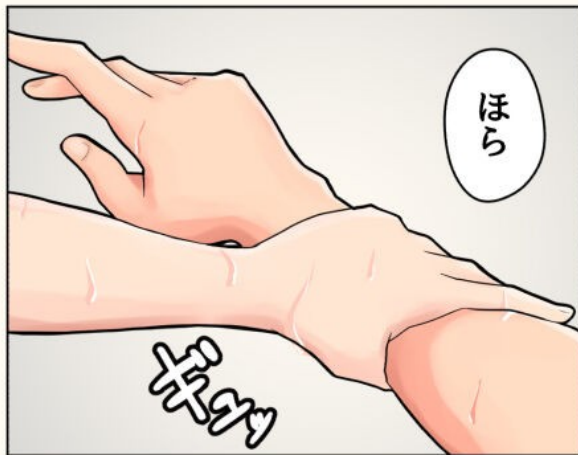
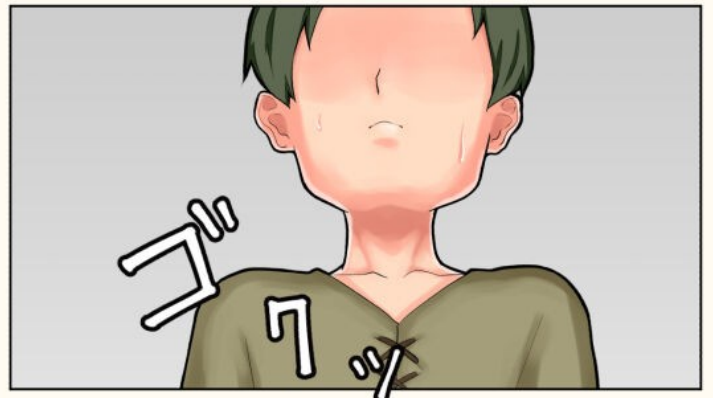
じゅるんっ♡

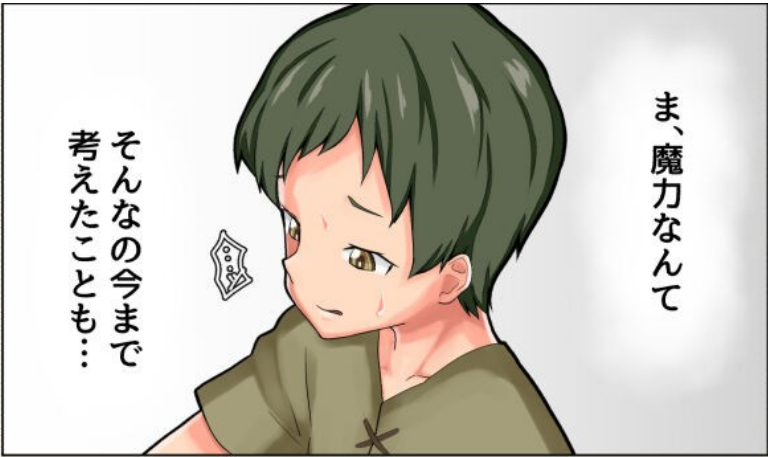
♡

へへっ

♡ どう?  
えっちっ?♡

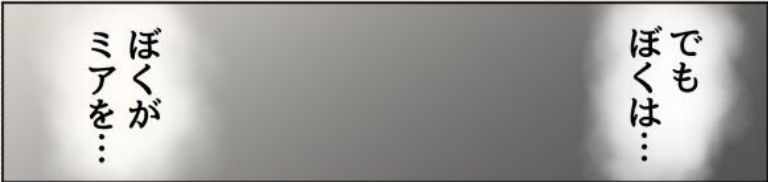
きゅ♡  
きゅ♡





ま、魔力なんて

そんなの今まで  
考えたことも…



でも  
ぼくは…

ぼくが  
ミアを…



自分の中にある  
魔力を想像して  
ここに流すの♡

ほら♡  
やってみて♡



…っ

ミアっ  
ぼ、僕っ



僕ミアの♡

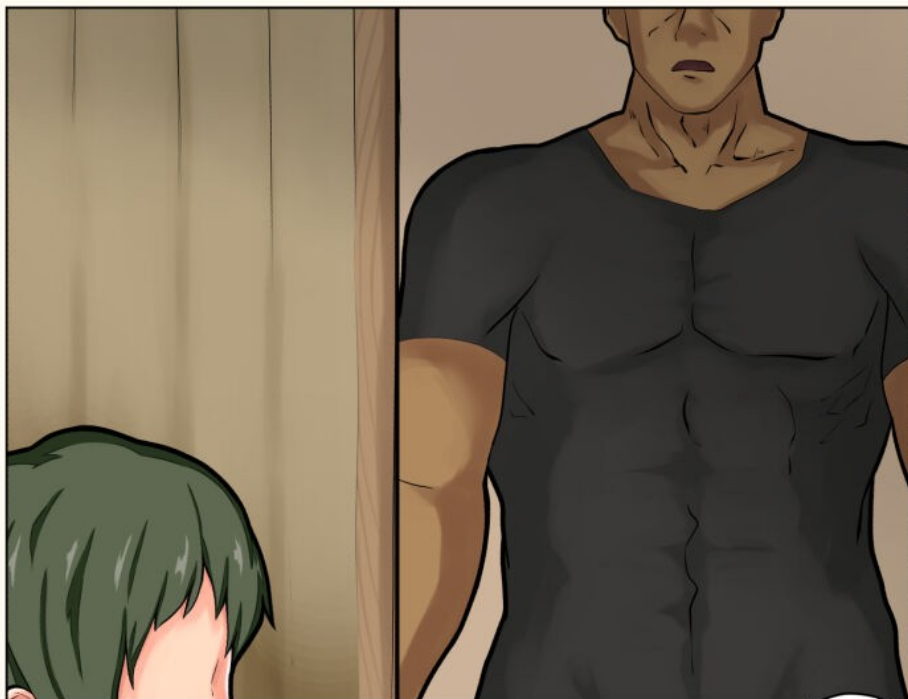
何やってんだ、ミア



あっ♡

あはっ♡  
テル、魔力  
あったんだね♡

ちよつと気持ちよく  
なっちやった♡







は、は、はっ♡

ごごめんね  
テルっ♡

でも  
ゆうしやさまがっ♡

ゆうしやさまが  
やれって言うから…♡

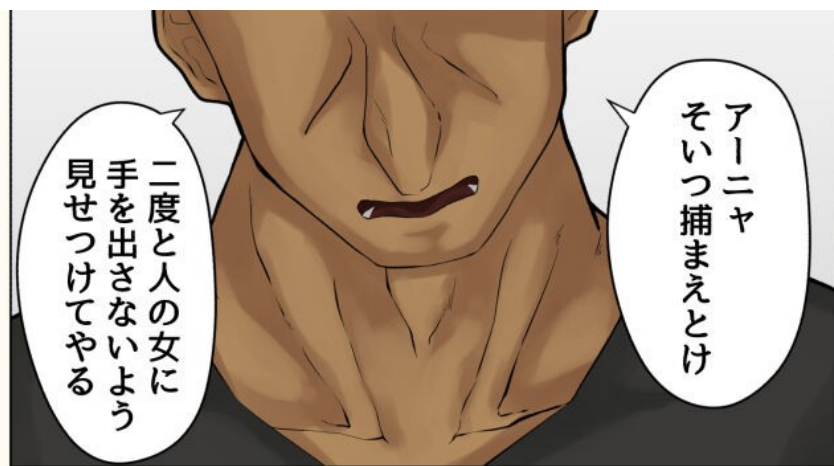


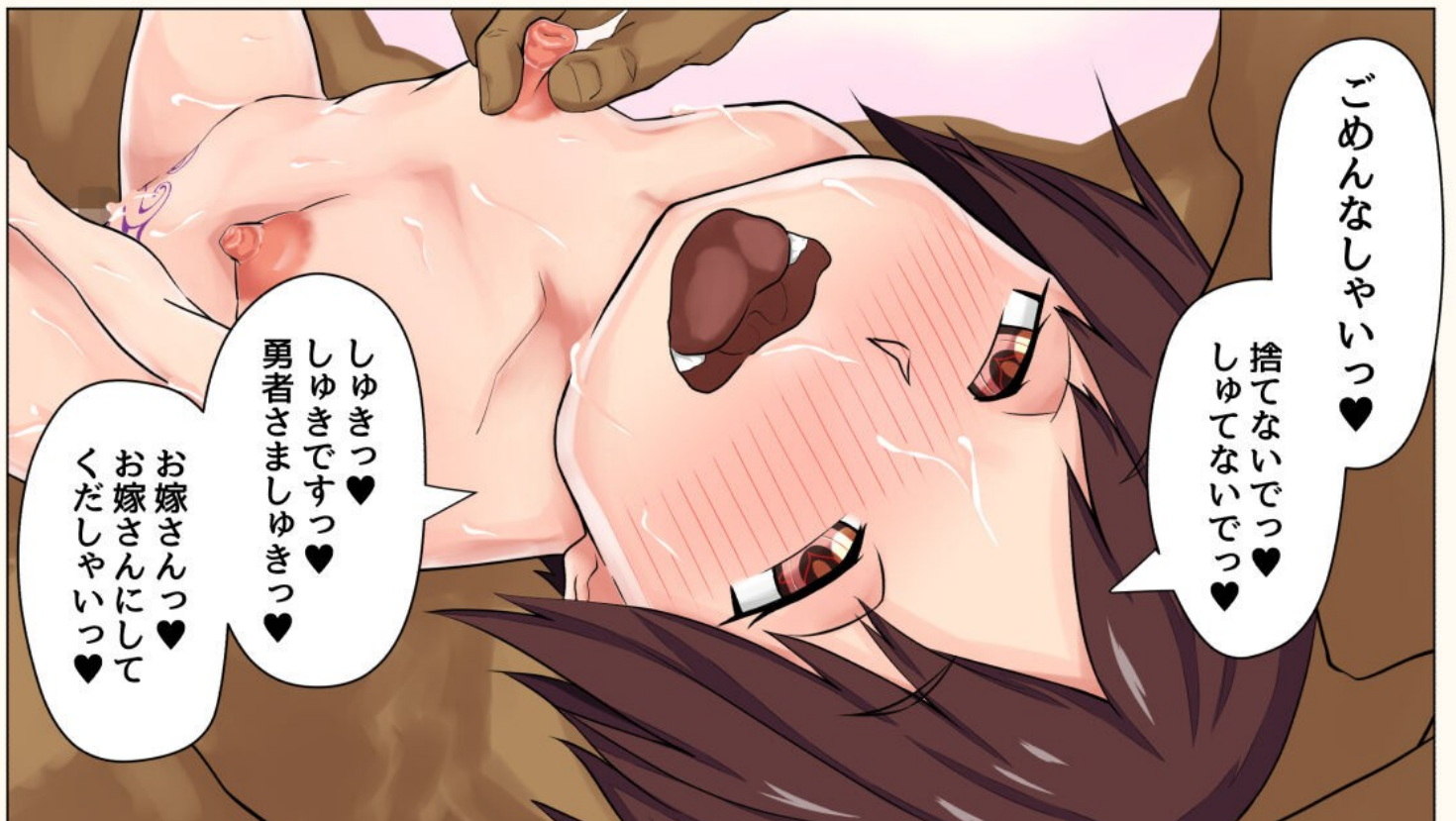
おひゅっ♡

ごちやごちや  
言ってねえで  
早くやれ

ごごめんなさいっ♡











そう



ねえ？  
ユテさん



王都の屋敷には  
勇者の女が  
いっぱいいる

けど  
勇者には  
それだけの  
力がある

子どもができて  
放り出されない



うそだっ！



毎日いっぱい  
遊んでもらって

すくなくとも  
私は幸せ



うそじゃない

だって私も  
勇者の玩具の  
ひとつだから



あら

テル君  
興奮しちゃった？



ちよつと  
遊んで  
あげよっか？♥



それにほら  
見て

彼女もあんなに  
幸せそう



ほらっ♥  
ぴゅっぴゅっ♥

いっちやえ♥  
いっちやえっ♥

ヤッ♥  
さす♥

好きな娘盗られて♡

イっちゃえっ♡



い  
っ  
ち  
ゃ  
え  
っ  
♡  
ひ  
ゅ  
る  
る  
♡  
い  
っ  
ち  
ゃ  
え  
っ  
♡





僕は勇者に道具のように  
使われる彼女たちを  
ただ見続けた

その場から  
逃げ出すことすら  
出来なかった

勇者は何の躊躇いもなく  
自らの精子を彼女達の  
膣内に吐き出し



彼女達はそれを  
喜んで受け入れた





：僕はそれをただ  
最後まで見ていること  
しかできなかった



けれども  
僕は見送りには  
行かなかった

僕がミアに会うことは  
もう二度とないだろうから…



次の日  
勇者はミア達を連れて  
王都へ帰っていった

◆その後のミアとアーニャ



誌名 勇者が僕の村に来た。

著者 西鷺めん

18歳未満の方の購入、閲覧を禁止します。

この本はフィクションです。実際の人物や団体などには一切関係ありません。  
この本の内容の一部または全部を無断で複製、複写、転載することを禁じます。

